

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 3 月 20 日作成)

小委員会名	感覚・知覚心理研究刊行小委員会		主査名：西名 大作 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主査名：佐土原 聡
設置期間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会の前身である感覚・知覚心理小委員会が開催してきた第 1 回～第 11 回のシンポジウム資料の内容をまとめ、成書として刊行することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年度：執筆方針を策定，執筆依頼をかけ，第一次原稿を収集，査読する。 ・2 年度：査読後に第二次原稿を依頼，さらに運営委員会での査読を経て脱稿。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し		
	<p>主査：西名大作 (広島大学) 幹事：原 直也 (関西大学), 原田昌幸 (名古屋市立大学) 委員：秋田剛 (東京電機大学), 梅宮典子 (大阪市立大学), 太田篤史 (横浜国立大学), 合掌頭 (岐阜大学), 澤島智明 (佐賀大学), 竹原広実 (京都ノートルダム女子大学), 竹村明久 (摂南大学), 土田義郎 (金沢工業大学), 松原斎樹 (京都府立大学), 光田恵 (大同大学), 宮本征一 (摂南大学), 山中俊夫 (大阪大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2014 年度予算	400,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	9 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	計画では 4～6 月までに最終原稿が完成し入稿の予定であったが，委員会内部での査読，並びに，第二次原稿の提出に遅れが生じたこと，さらに当初予定していなかった外部査読委員 2 名による査読を受けたことなどにより，予定より概ね半年間の遅れが生じた。しかしながら，2015 年度初めには刊行の予定である。
委員会活動の問題点 ・課題	外部査読委員 2 名による査読については，第一次原稿の集稿時に実施するべきであった。今後，学会から刊行される書籍について，外部査読が求められるなら，予め刊行小委員会の内規や申し合わせで明記すべきである。

20 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>2014年2月を第一次原稿の提出締切とし、3月中に査読を終える予定であったが、査読完了、査読依頼共に遅れ、これを受けて6月末に第二次原稿の提出締切を設定したものの、物理的にかなり厳しいスケジュールとなり、第二次原稿の集稿も予定通りには進まなかった。その間に委員会以外の専門家から査読を受ける必要があることが判明したため、11～12月の間に環境心理生理運営委員会委員2名による査読を受けることとなった。その結果に基づいた最終原稿の出版社への提出締切を2015年1月19日とし、現在、出版社から3月9日に提出された初校の校正作業、並びに、扉裏の用語解説の原稿作成など細部の詰めを進めている。</p> <p>当初の予定に時間的にかなりの無理があり、遅れが生じたのにもかかわらず、あえて最終的な刊行時期をずらさずに、よりタイトなスケジュールで臨んだことから、さらに締切が遵守されないという悪循環を招いた点は反省すべきである。</p> <p>しかしながら、2015年度初めには刊行可能の予定であることから、かなりの時間的な遅れは招いたものの、相応の活動は実施できたと考え、評価はBとした。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。